陳 情 文 書 表 (平成28年9月27日定例会提出)

陳情第36号

36万奈良市民のために新斎苑建設事業を推進することを求める陳情書

平成28年9月15日受理

陳情者 ●●●●●●●●●●●

鹿野園町自治会

会長 山中五郎外5名

要旨

36万奈良市民のために新斎苑建設事業を推進すること。

理由

現東山霊苑火葬場は、長年(100年)の使用で老朽化・狭隘化し、利用者への対応が困難な 状況であり、早急な移転建てかえが36万奈良市民の強い希望です。

今日まで、奈良市は約60年の長きにわたり移転に向けて努力されてきましたが、地権者や周辺住民の反対などでいまだに実現できていません。

奈良市は、この解決に向けて市内のあらゆる場所から候補地を再度選定され、最終的に「横井町山林」が計画地となりました。この「横井町山林」は地権者も同意されており、建設することは法的に何ら問題もないということですが、奈良市は、我々鹿野園町住民の住居が計画地に近いということで、我々の要望に応え、必要な地質調査等を行い、事業への理解を得るために住民説明会を4回繰り返し、130戸以上の戸別訪問を行うなど、事業への理解を得るための説明を続けられています。

町内では、一部の反対者から土砂災害や活断層への不安が出されていますが、本来、これらは 新斎苑建設と直接の関係はなく、従来からある地元の防災上の課題であることは良識ある住民の ほとんどが理解していますし、市の調査においても安全性は確認されています。

しかし、市議会においては、3月本会議で「地元住民の自然災害への不安を市の責任で払拭しない限り、現候補地で事業を推進する新たな予算化は認められない。」等の理由で、平成28年度の新斎苑に関する新規予算を削除されました。

今回奈良市は、自然災害への不安を払拭するために追加的に第三者評価を実施され、その指摘などに基づいて必要な調査を実施するための補正予算を提案されていると聞いております。我々はこれ以上の調査の必要性は感じておりませんが、今回の調査は、一部反対者も含め、地元住民の自然災害への不安を払拭するための市としてのさらなる努力と理解しています。

我々としては、決して積極的にこの事業に賛成しているわけではありませんが、現実として市内に他の候補地がない中で、防災や道路等の地域課題の解決と地域振興に向けた施策を、財源の

制約があることは理解していますが、我々と十分協議の上、奈良市が誠意を持って実現されることを条件に、36万奈良市民のため「横井町山林」を計画地とする新斎苑建設事業を容認するものです。

市議会におかれても、36万奈良市民のため、この事業を政争の具にすることなく、60年来の奈良市の課題解決のために一致団結して、横井町山林を計画地とするこの新斎苑建設事業を推進されることを陳情するものです。